

# — Preliminary Product Data —

## 剥離紙用シリコーン（付加型・軽剥離用） XS56-C4880

LI-82-11164 Issued Apr, '11  
ハニフィック R&D EMT  
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社

XS56-C4880は付加溶剤型剥離紙用シリコーンです。触媒のXC94-C4326と混合し、加熱することにより硬化します。Anchorsil 13000を併用することで、PETフィルム基材に対して密着性に優れた皮膜を形成します。

### 特長

- 軽剥離タイプです。当社の付加溶剤型剥離紙用シリコーンの中で、最も剥離力の軽いグレードに属します。
- 低移行タイプです。
- 安定した剥離力を示します。
- 低温硬化・速硬化性に優れています。

### 用途

- 光学用粘着テープの剥離フィルム
- テープ・ラベル用の剥離フィルム・剥離紙

### 特性例

一般物性	XS56-C4880	XC94-C4326	Anchorsil3000
外観	無色透明	無色～淡黄色	淡黄色～淡褐色
不揮発分 %	30	-	100
粘度 Pa·s {cP}	12 {12,000}	-	-
mm <sup>2</sup> /s	-	-	600
比重 (25°C)	0.89	0.87	0.99
含有溶剤	トルエン	トルエン	-
<b>剥離特性*</b>			
剥離力 mN/25mm {gf/25mm}		51 {5.2}	
残留接着率 %		92	
密着性 (コロナ処理PET)		良好	

### \*試験条件

1. 剥離フィルムの調整  
シリコーン配合比 : XS56-C4880/XC94-C4326/Anchorsil 13000 = 100/1.0/0.6 重量部  
基材 : PETフィルム (50um, コロナ処理)  
シリコーン塗工量 : 0.2g/m<sup>2</sup>  
硬化条件 : 120°C × 1min  
養生条件 : 25°C50%RH × 1day
2. 貼り合せ条件  
ニッター31Bテープ使用、貼り合せ養生 20g/cm<sup>2</sup>荷重70°C × 20h
3. 測定  
180° ピール、剥離速度 0.3m/min
4. 残留接着率  
ニッター31Bテープ使用、貼り合せ養生 20g/cm<sup>2</sup>荷重70°C × 20h

## 使用方法

XS56-C4880は、希釈溶剤で適度な濃度に希釈溶解した後、触媒のXC94-C4326（および必要な場合はAnchorsil3000）を添加混合します。

処理液配合例	(シリコン分2%の場合)
材料	重量部
XS56-C4880	100
XC94-C4326	1
Anchorsil3000	0.6
混合溶剤	1428.4
(トルエン/MEK=30/70重量部)	
計	1530

## 使用上の注意

- 本品は付加反応型シリコンです。処理液には触媒毒となるようなアミン、イオウ、有機スズなどの物質が混入しないように注意してください。
- 分解すると水素ガスを発生することがありますので、昇温したりアルカリと接触させないようにしてください。
- 取扱い時には、保護眼鏡および必要に応じて保護手袋を着用してください。
- 引火性があるため、火気のないところで取り扱ってください。
- 局所排気装置を運転し、換気をよくしてご使用ください。
- 安全性に関する詳細な情報につきましては、製品安全データシート（MSDS）をご参照ください。

## 保管

- 直射日光を避け、湿気の少ない涼しい場所に保管してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。

## 消防法

XS56-C4880 危険物第4類第一石油類該当  
XC94-C4326 危険物第4類第一石油類該当  
Anchorsil3000 指定可燃物 可燃性固体類に該当

記載のデータは、弊社の試験方法による実測値であり、規格値ではありません。ご使用に際しては、貴社使用条件に適合するか必ずご確認願います。

本サンプルの貴社におけるご使用に付き、いかなる特許にも抵触しないことを、弊社は保証するものではありません。本サンプルのご使用にあたっては、貴社の責任において、いかなる他社特許をも侵害しないことをご確認のうえ、ご使用の可否をご判断願います。貴社における本サンプルのご使用が、他社特許の侵害となること、あるいはその虞があることが、弊社にて確認された場合は、本サンプルの貴社への供給を停止させて頂くこともありますので、ご了承願います。

本品は、一般工業向けに開発・製造されたものです。医療用その他特殊用途に使用される場合には、貴社にてその安全性を事前にご試験ご確認のうえご使用ください。なお、体内に埋植、注入する用途、または体内に一部が残留するおそれのある用途には絶対に使用しないでください。